

世界旅打ち気分

●第78回・ヨークとチェスター

須田鷹雄



写真1) ヨーク競馬場の1角側からレースを見る



写真2) ヨーク競馬場の内馬場からスタンドを望む



写真3) チェスター競馬場の内馬場から由緒あるスタンドを望む

<https://www.instagram.com/sudatakaashoten/>

筆者がはじめて海外の競馬場に行ったのはマカオと香港、次いでアメリカのガルフストリーム。ヨーロッパでの初めてはイギリスのヨーク競馬場だった。

ヨークについては日付も分かる。2002年の8月20日。なぜ覚えてるかと思うとネイエフが勝ったインターナショナルステークスの当日だったからだ。当時の筆者は日曜にレギュラー番組があつたので土日の大レースは見に行けず、平日（このときは火曜日）のG1を選んで渡航した次第である。

20年以上前となると、さすがに記憶も曖昧だ。覚えているのはヨーク駅近くの交通博物館に寄ったこと、駅から送迎バスで行ったこと、そのバスにはいわゆる「灰色のおじさん」も乗っていて、「イギリスの競馬もジェントルメンばかりじゃないんだな」と思ったことである。

曖昧にしか思い出せないのには理由があつて、そのとき写真を撮っていなかったのである。その後自分が2000場を超える海外競馬場に行くことになると思っていないし、記録を残そうという意識もなかった。ちなみにオーストラリ

アで廃止されたゴールドコーストのハーネス場も写真を撮っておらず、人生最大の痛恨事となつている。

ヨークはなかなか廃止にはならないだろうが、やはり行けるうちに、行っておいたほうがよいだろうということ、今年23年ぶりに訪問した。ただ今回はG1日などではなく、ヒラ開催である。

行ってみるとあれ、こんな競馬場だったわけ？という印象だったのだが、それは前回の訪問翌年である03年にイボアスタンドが完成したことで、05年に走路の大改修が行われたためだろう。ファン送迎のオペレーションも変わっていて、02年はバスが入場門のすぐそばまで乗りつけたように思うのだが、いまはコーナー側の路上に乗降場が作られている。

場内は3つのスタンドにいろいろな店舗があつて、一度の訪問ではすべてを把握しきれないほどだ。スタンド裏手をずっと歩くと、まるで商店街を歩いているようで楽しい。品揃え豊富ではないがギフトショップのような店もある（競馬場グッズではなくネクタイやアクセサリーを売っている。高いエンクロ

ージャーの入場券を買っていないくても入れる食堂（ヨークカフェ&キッチン）はサンドイッチだと1200円くらいだが、サーモンやチキンなどのメインは2700円とイギリス価格。フードトラックも何台か出ていて、筆者が行った日には「いちき食」のトラックもあった。具とソースを選べる麺（和食かどうかは微妙）が2400円、餃子や春巻きが1400円。こうなるとなにを食べたいかではなく、「高いのにおいしくなかったエピソードのためになにを選ぶか」の世界になってくる。

観戦ポイントも豊富で良い。もちろん高い入場券を買っていないと入れないゾーンはあるのだが、上から2番目のチケットである「グラウンドスタンド&パドック」を選べば、正面から内馬場から、両方の観戦を楽しめる。

今回私が気に入ったのは、パドック（コーナー側にある）を見るための櫓のうち、最もコースに近いところから見るというもの（写真）。ゴールに向かって走ってくる馬たちを正面から見ると、ラチ沿いでポジション争いをしなくても見ることがで

きる。

チケットのうちいちばん安いのはクロックタワーエンクロージャーという内馬場エリアで、その名の通り古い時計塔がある。ここはかなりカジュアルで、Tシャツ短パンでも全く問題ない。「グラウンドスタンド&パドック」のチケットを持っていればこちらへの行き来もできるし、その際にはコース上を歩くことができるので「ミミ馬場開放」のように楽しむこともできる。

今回はもうひとつイギリスの競馬場を紹介しよう。チェスター競馬場である。ここは現存する最古の競馬場として知られているので、一度訪問しておきたかった。開場はなんと1539年。関ヶ原の合戦よりほるか前、長宗我部元親が生まれた年だそうである。もちろん競馬場はその歴史を誇っているもので、場内にはあちこちに「1539」の入った競馬場のロゴが掲示されている。

16世紀に競馬場を作ったときからこういう立地だったのかどうか分らないが、スタンドの裏手はすぐ道路で、スタンドとコースの間は狭い。入場者を収容しきれないので内馬場の施設をかなり充実さ

せており、バーやフードトラックなどの飲食施設も内馬場のほうが充実している。さらに、パドックも内馬場にある。笠松のようだが、こちらはもちろんパドックに張り付いて見るのが可能だ。

ジョッキールームも内馬場にあるし、表彰式などのイベントもパドック内のステージで行われる。筆者が行った日には「勝ち馬がその場でセリにかけられる」というイベントがあつたのだがなかなか買い手から声がかからず、鑑定人（司会者）が延々引っ張ってなんとか売れていた。

チケットはスタンド側がらのエンクロージャーで、それより安いのがザ・ルーディーという内馬場エリア。その他にスタンドの中の特定フロアや、バー・レストランのメニューなどいろいろなオプションがある。スタンド側の良いほうのエンクロージャー（カウンティンコース）を買っておけば、全てのエリアを見て歩くことは可能だ。ただ、レースごとにパドックを見たいという人がスタンド側でレースを見ようとすると、スタンド側と行ったり来たり（地下道がある）ということになる。

レースの観戦スポットで良かったのは、まず内馬場のラチ沿い。レースより少し早めに行って場所取りをしなければならぬが、自分のすぐ前を馬たちが駆け抜けていくのでかなり迫力がある。

もうひとつは、スタンド側、安い方のエンクロージャーから階段を上っていくと、高いところからレースを見下ろせるスポットがある。競馬場全体を見渡せるのだが、後ろはすぐ道路で、このスポットと道路を区切っているのは柵だけ。レースのタイミングになると道路上からレースを見ようという人も集まってくる。これも日本にはあまりない観戦様式だ。

チェスター競馬場は、残念ながら送迎バスを運行していない。行きはチェスター駅にタクシーがいるが、帰りはUBERか地元タクシー会社のアプリを入れておかないと難民になる。筆者は入れていたが携帯の電波が繋がらず、結局難民になった。公式サイトでは駅からは徒歩20分となっているが、実際には35分かかる。早いうちに帰りの時間を決めてUBERの予約機能で呼んでおくのがよいかもしれない。